

令和3年度 上田市立真田中学校 学校関係者評価

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価 (○) と課題 (◆)
<かりがね精神> ・磨き合う知性 ・感じ合う心 ・鍛え合う身体 ・見つめ合う命	・自ら意欲的に学ぶ生徒 ・豊かな心を育む生徒 ・進んで身体を鍛える生徒 ・命を大切にす生徒	○生徒の自主的な挨拶が素晴らしい。咲き誇るサルビアが真田中の代名詞となっている。 ○子どもたちのボランティア意識が高いことは、積極性や能動的な見方・考え方を育成していく上でとても大切。その前向きな姿勢を大事にし、授業が工夫・改善されれば素晴らしい。 ○食育に関する活動はどれも素晴らしく、生徒にも多大な影響を与えている。 ○ねらいをはっきりさせて授業に取り組んでいる。クロムブックの活用にも前向きに努力し対応をしてくれている。 ◆コロナ禍にあり、家庭と学校との直接の繋がりが難しいが、心身の問題等について、学校に相談ができる手立てを講じていく必要性が増している。心の逞しさや困難に立ち向かう力(心の健康)の成長に尽力いただければありがたい。地域支援の活用も考えられる。 ◆開かれた学校づくりとして、紙ベースだけでなくメールやHPを十分に活用して情報発信をすることやクラウドを活用して活動の様子が見られるような工夫も考えられる。

○評価基準A…達成できた イ…おおむね達成できた ウ…やや達成できなかった エ…達成できなかった として調査し、下の式で全体評価を行った。
 (Aの人数×4+イ×3+ウ×2+エ×1)×25/人数=S(合計点) S≥85→A S≥75→B+ S≥65→B S≥50→C S<50→D

領域	評価項目 今年度の 重点目標	評価の観点	成果と課題	学校 自己 評価	関係 者の 評価	改善策・向上策
教 育 活 動	自分の考えをもち主体的に学ぶ授業	子どもと共に学習課題を据え、提示しているか。	○ 子どもと共に課題設定することを意識して学習を組み立てた。 △ 生徒と共に課題設定することが難しい場には教師側で設定することもあった。	B	B+	・ 子どもたちが適切な学習課題を設定できるよう、教材や題材の研究を深め、問題提示を工夫していきたい。
		話し合いや発表など、自分の考えを伝え合い、学び合う場を設定しているか。	○ 目当ての明確化や話し合い活動・振り返りの場を毎時間設定した。 ○ Chromebook やデジタル教科書を使った授業展開を考え実践することで、授業のUD化や改善につなげることができた。 △ 話し合いの質を高めていきたい。	B	B+	・ 話し合いの目的を明確にして、学び合う姿勢を育てたい。 ・ 話し合いへの必要感がわく課題設定や、深まりのある話し合いができるよう仕組んでいく。 ・ 思考ツールを活用して、話し合いスキル向上をさせていく。
		授業の振り返り(自己評価・相互評価)の場面を設けているか。	○ 授業の最後に振り返りの時間をとり、生徒が「分かった」「できた」と自覚できるよう努めた。 ○ Chromebook を活用することで授業内で多くの生徒の振り返りを共有した。 △ つけたい力をもっと生徒に意識させていきたい。	B+	A	・ 授業では「つけたい力」を明示し、振り返りの場面で自己評価ができるようにしていく。 ・ Chromebook の機能を活用して1時間ごとの評価を蓄積し、自己の伸びを自覚できるようにしていく。
		家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう指導しているか。	○ 同じ課題の継続だけでなく授業の予習・復習や他の学習方法を紹介したり、生徒自身が工夫して始めた方法にアドバイス等をして主体性を伸ばした。 △ 自分が考えた工夫を友と共有し、互いに高め合う情報交換をさらにしたい。	C	C	・ 優れた学習をしている生徒の工夫を、さまざまな形で紹介し合えるようにしていく。 ・ 家庭学習と授業との繋がりをもたせて家庭学習の必要性を実感させていく。
学 校 運	伝え合い、認め合い、高め合う集団づくり	互いの違いを認め合い、自他共に大切にできる生徒や集団を育成しているか。	○ 子どものよさを認め、具体的な言葉で伝えるように努めた。 △ 子ども同士が互いの良さに気づき合えるような場面を意図を持って設けたい。	B	B+	・ 道徳やエンカウンター・SSTを大切にしたい。 ・ 人権に関する授業(11月予定)で生徒の人権感覚や他を大切にする姿勢をさらに育てたい。 ・ 互いのよい所を認め合う場面を設定する。
		他人の意見を真剣に聞ける生徒や学習集団を育成しているか。	○ 友の発言には耳を傾けるよう日常的に指導した。 △ 相手に聞こえる声量で話すことを意識するように指導を続けたい。	B	B+	・ 話し合いのスキル向上を図る。(話し合いのルールの掲示など) ・ 小集団での話し合いの成果を、全体に伝え深める場面での効率的な進め方を研究したい。
		集団の一員として、自主的・自律的な行動がとれる生徒を育成しているか。	○ 生徒会では、自主的に活動できる状況を作り、生徒が意欲的に活動する姿が多く見られた。 △ 役割分担を明確にすることで、主体的に状況を判断して行動出きる力を伸ばしたい。	C	B	・ 自主的・自律的に動ける場面を明確にし、どう動くかについて考え合うことを大切にしたい。 ・ 学級の問題を解決していく手立てを生徒たちが考えていく場面を設定していく。 ・ 生徒会や学級活動においても、振り返りの場面を設定する。
		個に応じた、望ましい生活習慣が身につくよう指導しているか。	○ 生徒会の活動がよりよい生活習慣を導き、多くの生徒が生活習慣の大切さを認識し行動できるようになってきた。 △ 互いに気持ちの良い生活習慣を身につけるために、継続して指導したい。	B	B+	・ 今後も生徒会の活動を支援すると共に、教師も教育相談等の機会や日常の声かけをしたい。 ・ 課題をもつ生徒には、そのよさを認めると共に、さらなる向上のため粘り強く相談や指導をしたい。
学 校 運	家庭や地域と連携した学びの場の創造	保護者と願いを共有した学校づくりに努めているか。	○ 学年・学級・個別懇談、電話連絡、保護者アンケートや学校通信や学年通信・学級通信を発行などで保護者との願の共有や学校生活の様子の発信に努めた。 △ コロナ禍にあり、直接の参観や懇談の機会に制限があり、参加工夫をしたい。	B	B+	・ 生徒の健やかな成長のために、保護者との個別の連絡や学校生活アンケートなどにより、願いを共有し、よりよい学校づくりを進めたい。 ・ コロナ禍において、安全・健康・命を守りながら、リモート参加の工夫をしたい。
		地域と連携し、生徒に地域愛や地域活動力が育つよう努めているか。	○ 2年生の総合的な学習では、地域の農家の方に講師を依頼し指導していただいた。 ○ 学校運営委員会が発足し、地域連携を広げていく基礎が構築された。 △ 地域ボランティアの方とPTA協働の場を設けることがコロナ禍で困難であった。	C	C	・ 学校運営委員会の組織や目的について学校だよりで保護者に知らせていく。 ・ 新型コロナウイルスの流行に留意しながらボランティア活動などへの参加を判断したい。 ・ 感染予防に配慮しながら、地域と連携した活動ができるよう工夫したい。
		地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりに努めているか。	○ ホームページや学校だよりを通して地域への発信を行った。 △ コロナ禍で、交流機会に制限があった。	C	B	・ 新型コロナウイルスの流行に留意しながら、地域に開かれた活動や学校づくりなどの事業を進めたい。
		小学校と連携した教育を進めているか。	○ 今年度から算数数学の小中連携を市教委の支援を受けて始めた。数学科教師が小学校へ行き、6年生・5年生の算数指導を行い、学力と学習意欲の向上や中1ギャップ解消に努めた。 △ コロナ禍で他の様々な交流が中止の状況。	C	C	・ 安心して入学し、健やかな学校生活のスタートを実現するため、今後も「体験授業」や「小中連絡会」を実施していきたい。 ・ 小中9年間を見通した地域連携・小中連携を考えていきたい。